

5. 八幡野川の許容流量はどれだけか それを超えないようにどのようにして調整池からの放流量を制御するのか

書 ・八幡野川の流下能力は $8.8 \text{ m}^3/\text{s}$ となっております。調整池に溜まった雨水は放流塔にあるオリフィス管による自然放流となり、流出容量を管径により絞り込み、調整しながら放流し制御します。

6. 沈砂池で処理された後、八幡野川に流れる水は清水か ゲリラ豪雨の時も清水であると保証できるか

書 ・清水ではありません。一般に清水とは岩の間などから湧き出る澄んだ水のことを指し、沈砂池で処理された水とは根本的に違います。

7. 樹木伐採に伴う保水力低下の定量的説明及び保水力低下に伴う土砂災害の定量的説明

書 ・保水力の低下に対する定量的根拠はありません。

8. 土砂災害に伴う敷地境界線近傍の土地家屋及び周辺道路、特に国道から名鉄赤沢別荘地へのアクセス道路への影響の程度についての説明

書 ・本事業により土砂の崩壊が起ることのないよう、県及び市で規定されている流量計算及び沈砂池を含む調整池設計基準に基づき設計を行い、下流部への土砂等の流出を防止しますので、アクセス道路への影響はありません。

9. 納得できる説明が得られない場合には、定点観測や目撃情報を収集する必要がある

検 ・必要であると認められた場合は、定点観測や目撃情報を収集致します。

C. 飲料水の水源及び温泉の源泉

1. 今上天皇陛下が隣接する池地区ご訪問のおり、お褒めに預かった飲料水は、住民の評判も大変良く素晴らしい財産である 温泉も然り、温泉が無ければ住んでいる意味がないという住民もいる程度である 広大な樹木の伐採がもたらす水源及び源泉の地下水脈への影響を心配している その心配はないという論拠を次の2ケースで示してほしい

- ・樹木の保水力が減少し現行より浸透過大となる場合
- ・調整池等により降雨を集めて排水するため、現行より浸透過小となる場合

書 ・保水力の低下に対する定量的根拠はありません。今回の事業地の地形と水脈は、近隣の別荘地の水源エリアと区域が違うことを確認しております。そのため、ご懸念の別荘地の水源（地下水）への影響はありません。

2. 浸透水量は現行比どの位と考えているか

書 ・今回の事業地の地形と水脈は、近隣の別荘地の水源エリアと区域が違うことを確認しております。そのため、ご懸念の別荘地の水源（地下水）への影響はありません。

3. 除草剤は使用しないと謳ってあるのは、除草剤による地下水脈への影響があると考えている証拠である。もし除草剤を使用したらいつ頃からどの程度の影響が出てくるか推計したか

書 ・薬剤の使用による河川及び海洋汚染が危惧されており、除草剤等の薬剤は一切使用致しません。

4. 造成した法面には種子吹付を行うとあります。種子吹付には一般的に肥料も一緒に使用する筈ですが、使用する肥料の名称と成分、数量及び敷地外への流出量

書 ・現在、肥料の使用は考えておりません。

5. 除草剤に代わる除草はいかなる方法か

書 ・人力による草刈り等を考えています。

6. 除草頻度と除草人役はどの程度事業計画に織り込んでいるか

書 ・除草頻度は年 3 回程度を考えておりますが、季節や草丈の成長により頻度は変わります。完成後の運営管理に関する費用については事業計画ではなく、発電所完成後における運営管理費に計上されております。

7. 合理的な頻度で水道及び温泉の定期的水質検査要

検 ・必要であると認められた場合は、水道及び温泉の定期的水質検査を実施致します。

D. 獣害

1. 広大な樹木の伐採は現にそこに棲んでいる鳥獣、昆虫等を別の場所へ移動させることになる

その一部は名鉄赤沢別荘地内へ移動し、農作物、樹木、草花の被害が増大する。これらの被害を定量的に説明できますか

書 ・弊社による現地調査及び、事業区域をよく知る現地住民の方々数名に、現状の山の動物の生態についてヒヤリングを行いました。結果につきましては、鹿については事業区域よりも高い山に生息しており、イノシシについても事業区域内に巣は発見できず、同様に高い山に生息しており、本事業による影響はないと考えます。万が一、事業区域周辺にて獣害による被害が発生した場合には、弊社が責任をもって駆除します。

農作物、樹木、草木に被害が増大するということが大変恐縮ですが、現状での名鉄赤沢別荘地内の獣害による被害状況におきまして、発生日月日、発生時刻と発生場所のプロット図、件数、獣種、被害を受けた農作物や樹木草花の種類、状況写真等の報告書をご提示願います。それらの定量的数値を弊社にて検証分析し、明らかに獣害が増大することが判明した場合につきましては、弊社が責任をもって駆除致します。

2. できない場合には定点観測や目撃情報等のデータを収集する必要がある

検 ・必要であると認められた場合は、定点観測や目撃情報等のデータ収集を実施致します。

E. 環境

1. 自然環境保全について実施した実生調査とその結果

書 ・別冊「平成 28 年度 伊豆高原（伊東市）八幡野地区メガソーラー自然環境保全協定に係る希少野生生物調査」報告書をご参照ください。

2. ソーラーパネルがどのように見えるかについて主要なビューポイントから見たソーラーパネルの完成予想図を提出のこと

書 ・主要なビューポイントから見た完成予想図は現在作成中です。完成次第ご提出させていただきます。

3. ソーラーパネル、電柱、フェンス等の設計耐震強度及び耐風圧強度

書 ・ソーラーパネルのアレイ架台の強度計算に関しては、J I S C 8 9 5 5（太陽電池アレイ用支持物設計標準）に基づき、風圧荷重、積雪荷重、地震荷重に対し計算を行い、設計基準に合ったものを設置致します。電柱の設置に関しては現在のところ考えておりません。フェンスに関しましても風圧力の基準に則った製品を採用致します。

4. 環境アセスを実施して住民を安心させることぐらい積極的にやって欲しいと考えるが如何か

即 ・静岡県における環境アセスメント制度の対象事業となる要件の中に、太陽光発電所の建設（太陽光発電所の建設に当たっては工業団地の造成に該当する）がありますが、造成する土地の区域の面積が 50 ヘクタール以上になった場合、評価調査や許認可手続等が必要となっています。今回の事業計画地における造成する土地の面積は約 43 ヘクタールとなっており、50 ヘクタール以下となっておりまして、評価調査や許認可手続等は不要となっております。

5. 電力会社と接続する高圧電線の設置ルート

書 ・事業計画地内に送電線及び鉄塔が存在しており、その部分において送電接続を計画しております。

6. ソーラーパネル、高圧電線等から発生する電磁波の最大強度と名鉄赤沢別荘地敷地境界線での強度

書 ・事業区域及び名鉄赤沢別荘地には既に送電線及び鉄塔が存在しており、ソーラーパネル設置による電磁波の影響はないと考えております。一般に、ソーラーパネルは直流の電力をつくりだすところであり電磁波は発生しませんが、直流を交流に変換するパワーコンディショナー内で発生します。しかしながら、一定の離隔距離を確保することにより電磁波による影響を抑えられます。パワーコンディショナーの設置位置は造成面内あり、残置森林を含んだ森林幅おおよそ 30～400 m で覆っている為、影響はありません。

7. 検証のため合理的な頻度及び点数で電磁波の定期的測定要

検 ・必要であると認められた場合は、合理的な頻度及び点数で電磁波の定期的測定を実施致します。